

八監第28号

令和7年6月25日

公立八鹿病院組合

管理者 春名 常洋 様

監査委員 藤原 洋介

監査委員 森浦 繁

令和6年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算の審査意見の提出について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された令和6年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算を審査した結果について、次のとおりその意見を提出します。

令和6年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算 審査意見書

第1 審査の概要

1 審査の対象

令和6年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算

2 審査の期間

令和7年6月3日から25日まで

3 審査の方法

令和6年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算の審査にあたっては、管理者から提出された決算書について、決算報告書、財務諸表、決算附属書類並びに事業報告書を基に審査を実施した。関係会計諸帳票及び預金残高証明書等の証拠書類と内容の照合点検を行い、財政状態及び経営状況の実態を把握した上で各種資料により、過去数年の経営状況等の推移、他病院や全国平均との比較、並びに経営分析指標に基づく検討や分析、実査を行い、事業の効率執行などを主眼に決算審査を実施した。

4 審査の結果

決算書及び決算附属書類等は、法令に準拠して作成され、当監査委員は意見表明の基礎となる適切な監査証拠を入手したと判断した。計数は正確であり、経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。

第2 総 説

1 事業量

病床数は、422床（一般380床〔八鹿338床、村岡42床〕、療養35床〔八鹿35床〕、結核7床〔八鹿7床〕）である。

令和6年度の年間入院患者総数は、104,224人（前年度99,122人）で対前年5,102人（5.1%）増加した。内訳は八鹿病院が3,849人の増、村岡病院が1,253人の増となって

いる。患者総数での病床利用率は 67.7%（前年度 64.2%）に上昇し、八鹿病院で 69.3%（前年度 66.4%）、村岡病院で 52.6%（前年度 44.3%）に上昇している。令和 5 年度は新型コロナ感染症の院内クラスター発生に伴う入院制限の実施などにより入院患者数が減少していたが、令和 6 年度には回復したものである。

年間外来患者総数は、124,276 人（前年度 126,789 人）で対前年 2,513 人（2.0%）減少し、内訳は八鹿病院で 1,915 人の減、村岡病院で 598 人の減となっている。八鹿病院の外来患者数減少の要因としては、常勤医不在となった診療科や発熱外来患者の更なる減少などがあげられる。

2 経営状況

（1）八鹿病院・村岡病院

令和 6 年度の病院事業収益は 7,573,096 千円（前年度 7,459,882 千円）で、対前年 113,213 千円（1.5%）増加した。病院事業費用は 8,120,755 千円（前年度 8,190,494 千円）で、対前年 69,740 千円（0.9%）減少した。病院事業収支は純損失が 547,659 千円となり、730,612 千円の純損失を計上した前年度から 182,953 千円改善したものの、2 年連続赤字決算となった。病院別では、八鹿病院で純損失 484,750 千円（前年度 676,333 千円）を計上し 191,583 千円収支改善、村岡病院で純損失 62,909 千円（前年度 54,279 千円）を計上し 8,630 千円収支が悪化した。

医業収益は 6,585,447 千円（前年度 6,391,441 千円）で対前年 194,006 千円（3.0%）の増収となった。このうち、入院収益は 207,979 千円（4.9%）の増収、外来収益は 24,958 千円（1.5%）の減収となっている。医業費用は 7,823,816 千円（前年度 7,908,807 千円）で対前年 84,991 千円（1.1%）減少した。中でも減価償却費 288,443 千円、材料費 29,286 千円減少した一方、給与費 202,584 千円、経費 45,297 千円増加している。医業収支比率は 84.2%（前年度 80.8%）と 3.4 ポイント改善した。

医業外収益は 977,648 千円（前年度 1,067,792 千円）で対前年 90,144 千円（8.4%）の減収となったが、このうち長期前受金戻入の減収が 125,502 千円を占めている。経常収支比率は 93.3%（前年度 91.1%）で 2.2 ポイント悪化した。

① 入院・外来収益の状況

八鹿病院では、入院患者一人一日当たりの収益が 43,263 円（対前年 68 円増）となり、入院患者数も増加したため入院収益は 4,160,317 千円（前年度 3,987,546 千円）と、対前年 172,771 千円（4.3%）の増収となった。外来患者一人一日当たりの収益は 13,140 円（対前年 134 円増）となったが、外来患者数が減少に伴い、外来収益は 1,500,429 千円（前年度 1,510,107 千円）と、対前年 9,678 千円（0.6%）の減収とな

った。

村岡病院では、入院患者一人一日当たりの収益が 31,296 円（対前年 589 円減）となつた。入院患者数は増加したことから、入院収益は 252,246 千円（前年度 217,038 千円）と、対前年 35,208 千円（16.2%）の増収となつた。外来患者一人一日当たりの収益は 17,306 円（対前年 461 円減）となり、外来患者数が減少したため、外来収益は 174,562 千円（前年度 189,843 千円）と、対前年 15,280 千円（8.0%）の減収となつた。

② 職員数及び給与費の状況

令和 6 年度末の八鹿病院及び村岡病院の職員数は、合計 621 人で、前年度に比べ 16 人の増員となっている。なお、医師数は前年と同数であった。

一方で、給与費は 4,925,335 千円（前年度 4,722,750 千円）と対前年 202,584 千円（4.3%）の増加となっている。これは人事院勧告に伴う給与改定の実施により、職員一人あたりの給与費が増加したためである。医業収益に対する給与費の割合は 74.8%（前年度 73.9%）と対前年 0.9 ポイント上昇している。

③ 材料費・経費の状況

医業収益が増加した一方で、材料費は 1,150,353 千円（前年度 1,179,639 千円）と前年度に比べ 29,286 千円減少した。八鹿病院における抗がん剤治療の使用の減少が主な要因である。医業収益に対する材料費の割合は 17.5%（前年度 18.5%）と対前年 1.0 ポイント減少している。

経費については 1,094,829 千円（前年度 1,049,532 千円）と前年度に比べ 45,297 千円増加した。経費の内訳としては、委託料 612,196 千円（八鹿病院 561,957 千円、村岡病院 50,239 千円）、光熱水費 137,755 千円（八鹿病院 126,599 千円、村岡病院 11,156 千円）、修繕費 51,185 千円（八鹿病院 48,342 千円、村岡病院 2,843 千円）、燃料費 63,829 千円（八鹿病院 63,546 千円、村岡病院 283 千円）、消耗品費 48,966 千円（八鹿病院 44,465 千円、村岡病院 4,501 千円）などが主なものである。このうち委託費が対前年 48,593 千円（8.6%）増加したことが経費の増加につながっている。一方で、医業収益に対する経費の割合は 16.6%（前年度 16.4%）と対前年 0.2 ポイント上昇している。

（2）むらおか訪問看護ステーション

一日平均利用者数は 18.7 人（前年度 19.0 人）と対前年 0.3 人の減となった。事業収益は 45,594 千円（前年度 46,661 千円）と対前年 1,066 千円（2.3%）の減収となっている。減価償却費等の増加により事業費用は増加しており、純利益は 4,733 千円（前年度 6,140 千円）と対前年 1,408 千円の減益となつた。

(3) 看護専門学校

令和6年度卒業生18人のうち、当組合へ9人が就職しており、看護師確保に寄与している。また、3人が豊岡病院へ就職し、但馬地域の医療機関の看護師確保にも貢献している。

収益では、事業収益が23,849千円（前年度24,680千円）で対前年831千円（3.4%）減少、事業外収益が93,934千円（前年度91,714千円）で対前年2,220千円（2.4%）増加となっている。事業外収益の補助金と負担金交付金を合わせた額は59,481千円（前年度57,188千円）で、収益に対する構成割合50.5%（前年度49.0%）となっており、看護学校という事業の特殊性から外部資金への依存度が高い。

事業費用は160,646千円（前年度152,940千円）であり、主な内訳は給与費111,633千円（前年度105,093千円）、経費24,260千円（前年度23,160千円）、減価償却費23,364千円（前年度23,179千円）となっている。

総収益117,783千円（前年度116,593千円）、総費用163,670千円（前年度156,645千円）で純損失は45,887千円（前年度40,052千円）となり、前年度に比べ5,835千円悪化している。

(4) 福祉センター

① 老人保健施設

年間利用者数は施設サービス、短期入所療養介護、重症心身障害児（者）短期入所を合わせた入所者数30,090人（前年度31,464人）で対前年1,374人減少し、通所者数11,197人（前年度11,045人）で対前年152人増加している。入所者数の減少については、スタッフ不足により入所制限を行ったことによるものである。

事業収益は596,375千円（前年度586,742千円）と対前年9,633千円の増収となった。その内訳は、入所収益436,512千円（前年度431,477千円）、通所収益131,679千円（前年度127,016千円）が主なものであり、利用者数の減少はあったものの、単価上昇により入所収益は増加している。事業外収益については、長期前受金戻入18,668千円（前年度22,316千円）などが主なものとなっている。

事業費用は685,684千円（前年度637,520千円）であり、主な内訳は給与費518,090千円（前年度472,920千円）、材料費7,849千円（前年度8,196千円）、経費130,922千円（前年度128,227千円）、減価償却費28,271千円（前年度27,292千円）となっている。給与費の増加が事業費用の増加の要因となっているが、人事院勧告に伴う給与改定の実施による所が大きい。

総収益616,411千円（前年度610,537千円）、総費用699,095千円（前年度650,678

千円) で純損失は 82,684 千円となった。40,140 千円の純損失を計上した昨年度との比較では、42,544 千円の悪化となった。

② 南但訪問看護センター

一日平均利用者数は、109.7 人（前年度 119.0 人）と対前年 9.3 人（7.8%）の減となった。南但訪問看護センターでは、常勤職員を非常勤職員へ置換えなどがあり訪問件数が大幅に減っている。

事業収益では、訪問件数の減少により、療養料収益が 287,302 千円（前年度 310,087 千円）と対前年 22,785 千円（7.3%）の減収となった。事業費用では、職員数の減少により、給与費が 251,259 千円（前年度 260,959 千円）と対前年 9,700 千円（3.7%）の減となった。

総収益 291,080 千円（前年度 314,037 千円）、総費用 271,419 千円（前年度 281,718 千円）で純利益は 19,661 千円（前年度 32,319 千円）となり、前年度に比べ 12,658 千円の減益となった。

④ 居宅介護支援事業所

年間プラン作成件数は 1,450 件（前年度 1,434 件）となっている。

事業収益では受託収益が 19,831 千円（前年度 18,923 千円）で総収益のほぼ全額を占め、事業費用では給与費が 29,157 千円（前年度 25,961 千円）で総費用の 94.4% を占めている。

事業収支状況は、総収益 20,503 千円（前年度 19,212 千円）、総費用 30,892 千円（前年度 27,878 千円）で、10,389 千円（前年度 8,666 千円）の純損失となり、対前年 1,723 千円悪化した。

（5）資本的収支

令和 6 年度の主な施設整備事業として、八鹿病院の PET-CT 導入に伴う施設整備工事（178,200 千円）、中央監視装置更新工事（165,000 千円）、非常用発電設備伝送系統整備事業（42,130 千円）、画像診断科等空調設備改修工事（25,366 千円）、などがあげられる。このほかにも、看護専門学校宿舎消防設備更新工事（14,608 千円）、などを実施した。

主な医療機器等整備事業としては、八鹿病院の X 線 CT 組合せ型ポジトロン CT 装置（152,680 千円）、画像診断装置ワークステーション（16,390 千円）、高圧蒸気滅菌機（11,660 千円）などを更新したほか、村岡病院の調剤支援システム（6,820 千円）等を更新した。

資本的支出の総額は 1,508,500 千円（前年度 1,815,350 千円）で、その内訳は、建

設改良費 755,941 千円（前年度 448,661 千円）、企業債償還金 715,589 千円（前年度 740,999 千円）、投資 36,970 千円（前年度 625,691 千円）となっている。

この財源となる資本的収入は 1,479,778 千円（前年度 981,355 千円）で、その内訳は、企業債 586,600 千円（前年度 406,600 千円）、他会計繰入金 673,394 千円（前年度 546,420 千円）、投資回収金 218,629 千円（前年度 25,970 千円）などであり、資本的支出が資本的収入を 28,722 千円上回った。

なお、資本的収入において、投資回収金が前年度比 192,659 千円増加した理由は、令和 5 年度にはなかったが、令和 6 年度は満期の有価証券 200,000 千円を現金化していったためである。また、資本的支出において投資が前年度比 588,721 千円減少した理由は、令和 5 年度に 600,000 千円の有価証券の再投資を行ったが、令和 6 年度は実施しなかったためである。

3 審査意見

令和 6 年度の収支については、組合全体で収入 8,664,680 千円（前年度 8,567,197 千円）、費用 9,326,905 千円（前年度 9,348,207 千円）で差し引き 662,225 千円（前年度 781,010 千円の純損失）の純損失を計上し、118,785 千円の収支改善となった。

令和 2 年度から令和 5 年度 5 月まで続いた新型コロナウイルス感染症にかかる特殊要因、つまり特別な医療体制への補助金等による資金的な支援が終了し、令和 6 年度はコロナ禍以前の平時決算に戻った。こうした状況下で、医業収益の 3 分の 2 を占める入院収益において、患者数の約 50%を占める内科と、それぞれ 20%弱を占めるリハビリ科・整形外科の患者数が増加したことで入院収益が前年対比 4.9%増加した。医業収益の 4 分の 1 を占める外来収益においては、患者数の 25%以上を占める内科の患者数が減少したものの、約 20%を占める整形外科の患者数は直近 3 期で最も多い患者数となったことにより、外来収益は前年対比 1.5%の減少にとどまった。これらの要因により、医業収益 6,585,447 千円（前年度 6,391,441 千円）となったことが収支改善の主な要因である。

八鹿病院は、構成市町民のための地域中核病院として地域住民の期待が大変大きい。今後も医療の安定供給のために、本体である病院の健全経営の維持が求められる。令和 6 年度決算において、課題への対策を講じたうえで収支を改善したという点は評価される。しかしながら、構成市町からの外来患者数減少率が構成市町外よりも高いという事実に目を向け、提供する医療サービスや発信している情報が住民に伝わっているのかどうか、求められていることと合致しているのかどうかについて、客観的に振り返る必要があると考える。本業の医業収支は依然として厳しい経営状態が続いているため、これ

らの検証に基づき、今後も構成市町はもちろん、周辺地域からの当病院の受診患者増加にも注力し、経費削減にも留意して、さらなる改善に努められたい。

村岡病院は、レスパイト入院の受入れ強化による効果が通期に及んだこと等により入院患者数が8,060人(前年度6,807人)と増加したことを主な要因として医業収益は増加した結果、人件費増加等による支出増加もあったが、10,559千円の医業収支改善となった。

医業は、売上単価にあたる診療報酬を国が定める、いわゆる「価格決定権のない事業」である。一方で費用面においては、医業費用の60%超を占める給与費が人事院勧告によって事実上決定され、次いで多い薬剤費は国が薬価を決定している。物品や食材、エネルギーは物価高騰等の影響を受けて負担が増している。現場のコントロールが効かない要因が大勢を占めているというマクロの視点は、全国の公立病院経営が悪化していることが示している。しかしながら、目の前の数字をマクロの視点で悲観していくはいけない。八鹿病院の内科、リハビリ科、整形外科の入院患者数増加、村岡病院の入院患者数増加という、令和6年度に講じた施策が結果に表れている部分がある。八鹿病院においては、令和6年度に導入したPET-CTが本格稼働している。こうしたミクロの視点で各部門や各現場を丁寧に見つめ、向き合い、その現実が数字と合致するかどうかということが、経営管理において重要なことである。

統計上、当地域は国内有数の少子高齢化が進む過疎地である。裏を返せば、人口が減少に転じた日本においては、日本の近未来を示す最先端地域とも言える。令和6年に策定した病院経営強化プランを有効に活用した体制整備を通じ、今後も地域に根ざした医療に継続して取り組み、地域に貢献することを望む。

職員一人ひとりが、前述した最先端地域であるという自負を持って、公立八鹿病院組合の経営資源をどのようにして活かしきるのかを考え行動し、多くの付加価値をもたらすことを期待する。

むすびに、新型コロナウイルス感染症を機として大きく環境が変化しただけでなく、人手不足が深刻化する厳しい環境下で、日々医療サービスの提供に従事されている役職員のみなさまに最大限の敬意を表するとともに、今後も八鹿病院の基本理念である「医の倫理を基本に、質の高い医療と優れたサービスをもって、住民の健康を守り、地域の発展に尽くす」及び行動指針にある「患者中心の医療」、「思いやりのある医療サービスの提供」を八鹿病院のみならず、組合全体においても大切にされ、持続性のある事業運営に努めていただきたい。